

最近のフィリピン情勢と日フィリピン関係

2023年10月 羽田浩二

フィリピン内政

1. マルコス政権の発足と主な顔ぶれ

- 昨年5月の国政選挙では、**フェルディナンド・マルコス元上院議員**が、タンデムを組んだ**サラ・ドゥテルテ前ダバオ市長**とともに、**過去最高得票数で勝利**。
- 「独裁者」と呼ばれた父・マルコス元大統領のイメージ転換を図るとともに、サラ候補とのタンデムによりドゥテルテ支持層の獲得に成功したことが大きな要因と言われる。
- 主要閣僚の中には、アキノ政権やアロヨ政権当時の関係者を含め、実務に通じたメンバーで構成されており、手堅い人事と評価されている。その中でも、**リザ大統領夫人**や**ラグダメオ特別補佐官**が**キーパーソン**との見方あり。



2. マルコス政権の主な政策

- マルコス政権は、新型コロナやその他の外的要因による経済不安を払拭することを第一義とし、**経済・雇用対策に注力**。
- インフラ関係では、前政権の方針を継承・発展させる形で「**ビルド・ベター・モア (BBM)**」政策として推進。従来のODAに加え、官民連携 (PPP) も積極的に推進し、民間資金を活用した社会経済開発を追求。加えて、**農業の近代化**、**エネルギー対策** (再生可能エネルギーの拡大、天然ガス、原子力の活用)、**デジタル化**を優先政策分野と位置付けている。
- 外交・安全保障分野では、中国との間で南シナ海問題等を抱えつつも、「**フィリピンは全ての友人であり、誰の敵でもない**」と**全方位外交を前提とする立場**。**米国との同盟関係を強化**するとともに、**我が国とも幅広い分野での連携を発展させる方針** (詳細は次ページ参照)。

3. 今後の注目点

- 政権発足以来、**政権支持率は高い水準で推移**していたが、本年9月時点で55%まで下落。続くインフレによる物価高騰、進まない経済発展に対する国民の不満が表出したと受け止める向きもあり、**政権2年目に入った今後具体的な成果をより厳しく求められる可能性が高い**。
- ドゥテルテ副大統領に近いと言われるアロヨ元大統領 (現下院議員) がロムアルデス下院議長 (マルコス大統領の従弟) に対するクーデターを画策して上級副議長職を降格させられたと噂される等、**マルコス家＝ドゥテルテ家の政治連合が維持できるのかが注目点**。2025年の上下院の中間選挙に向けてドゥテルテ副大統領が独自色を出してくるかがポイント。
- **ミンダナオ和平は、2025年の普通選挙実施及びバンサモロ自治政府正式発足に向けた動きが継続**。

フィリピン外交

1. フィリピン外交概況

- ①国家安全保障の持続と強化、②経済外交の推進と実現、③海外のフィリピン人の権利保護と福利向上が外交の三本柱。
- 地政学的な背景から、歴史的な紐帯を有し、**同盟関係にある米国と経済面を中心に存在感を増す中国との間でバランスを取る全方位外交**がフィリピンの基本姿勢。
- 反米姿勢と対中傾斜の傾向が強かったドゥテルテ政権と比較し、**マルコス政権は米中両国との間でバランスを取る姿勢**。対日関係は経済協力に加え、安全保障協力も積極的。



2. 日比関係

- **日比両国は「戦略的パートナー」**であり、ドゥテルテ政権中も含めて非常に緊密。マルコス政権発足後も、昨年9月にNYで首脳ワーキングランチを実施し、連携を強化することを確認。同9月の安倍元総理国葬儀にはサラ副大統領が参列。
- **本年2月にマルコス大統領が日本を公式訪問**。天皇皇后両陛下と御会見した他、日比首脳会談を実施し、**両国関係を一層発展させていくことを確認**。日本から比に対し、**来年3月までに官民で6,000億円の支援**を実施する旨表明。
- **安全保障面での連携が一層進展**。昨年4月に初の「2+2」を実施した他、**本年6月に初の日米比国家安全保障補佐官会議を開催**。海洋安保面では、**比沿岸警備隊に大型巡視船等を供与するとともに、本年6月に初の日米比海上保安機関合同訓練を実施**。

3. 対米関係

- ドゥテルテ政権中に漂流した**米比関係は、マルコス政権下で従来の強固な関係に改善**。本年5月にDCで米比首脳会談を実施し、同盟へのコミットメントを再確認するとともに、米からの投資ミッションの派遣等、経済面での関係強化に合意。
- **米比同盟回帰・強化の方向**。本年4月に7年ぶりの米比「2+2」を開催し、防衛協力強化協定(EDCA)の運用開始加速化や、米比・同志国による多国間海洋活動の実施に合意。マルコス大統領訪米に合わせて初の米比ガイドラインを発表。
- マルコス政権は日米比連携に積極的。上述の安全保障分野協力に加え、本年9月にジャカルタで日米比首脳会談を実施。

4. 対中関係

- 経済面を中心に、**良好な対中関係を維持するとの姿勢はマルコス政権下でも継続**。本年1月のマルコス大統領訪中の際には、14本の政府間合意文書を締結した他、228億ドル相当の投資意図表明を確保したことをアピール。
- 他方、**南シナ海では中国側による現状変更の試みが継続**。中国海警船による妨害事案等が頻繁に発生。本年2月には比沿岸警備隊へのレーザー照射事案(マルコス大統領自身が中国大使に抗議を実施。)、8月には放水砲による妨害行為が発生。

フィリピン経済

1. 概況

- 新型コロナの影響で2020年は▲9.5%と落ち込んだが、2021年は5.7%、2022年は7.6%(1976年以来最高)と順調に回復。他方、足下では鈍化しており、成長率目標(2023年:6-7%)の達成が危ぶまれる。**インフレ・利上げの悪影響**を抑えつつ、着実な成長を続けていけるかが鍵。
 - **高い人口増加率・英語人口**を背景に、第三次産業(コールセンター等)が成長を牽引。
 - 他方、**第一次・第二次産業には課題**が多く、貿易赤字を**海外労働者からの送金**で埋め合わせる構造。産業活性化に注力しており、**2022年前半に外国資本規制を緩和**する法改正等を行った(小売り、公共サービス、再エネ分野等)。
- 政府債務残高はコロナ対応で急増(対GDP比19年末:39.6%→22年末:60.9%)するも、高い成長率を背景に中長期的には低下が見込まれる。外貨準備も潤沢(23年8月末:996億ドル・輸入7.4か月分)。
- 2022年からは、**インフレ**(最大8.7%(23年1月))と**利上げ**(22年4月:2.0%→23年3月以降:6.25%)、**通貨の減価**(22年1月:1ドル=51.2ペソ→22年10月:58.8ペソ)が進む。**足下では若干の落ち着き**を見せているが、なお注視が必要。

2. 経済・財政政策

- **長期経済ビジョン:「AmBisyon Natin 2040 (我々の野心2040)」**
 - 2016年策定。2040年までの**25年間で国民一人当たり所得を3倍**に(2015年一人当たりGNI:3,350ドル)。
- **中期開発計画:「フィリピン開発計画(PDP)2023-2028」**
 - 実質6.5~8.0%の成長、4-5%の失業率を維持、2028年までに貧困率を18%から8-9%へ引き下げ。
- **マルコス政権による前政権の政策の継承及び拡大**
 - 大規模なインフラ整備計画「ビルド・ビルド・ビルド」を継続・拡大し、「**ビルド・ベター・モア(BBM)**」政策を推進。**官民連携(PPP)も重視**。
- **農業政策を重視**
 - 世界的な食料価格の高騰や食糧不足に対応すべく、**マルコス大統領が農業大臣を兼務**。国内生産の拡大を進めるほか、中長期的には農業省の再編も視野に入れる。短期的価格変動には、米の小売価格上限規制の導入で対応。
- **中期財政計画(MTFF)**
 - 政権最終年の2028年までに中央政府財政赤字対GDP比を3%まで引き下げることが目標(2022年:7.3%)。

日フィリピン経済関係及び日本の対フィリピン支援

1. 概況

- 日本は**主要な直接投資国**(直近10年間累計:第2位)、**主要な貿易相手国**(直近10年間累計:輸出第1位、輸入第2位)。
- 2008年、比にとって最初の二国間貿易協定である**日比経済連携協定発効**。一般的見直しを議論中。
 - 比は日本におけるバナナ等農産物の関税の撤廃に強い関心。
- 日本は比にとって**最大の援助供与国**(累計約346億米ドル 参考:2位:米国、3位:豪州)。あらゆる面で支援を展開。
 - 2017年、日本政府は5年間で官民総額1兆円の支援をコミットし、目標を上回る1.38兆円を達成。さらに本年2月には来年3月までに**官民総額6,000億円**の支援をコミット。閣僚級の**日比経済協カインフラ合同委員会(これまで14回開催、直近は本年8月東京にて開催)**等を通じてフォローアップ。
 - **バンサモロ復興開発イニシアチブ(J-BIRD)**の下で、和平合意成立以前からミンダナオ和平を支援。
 - **中進国入り・タイド援助からの卒業**を控え、対比援助方針の見直しが必要。

2. 日本の対フィリピン支援の重点分野・主な事業

- **質の高いインフラ整備**
 - **マニラ首都圏地下鉄**、マニラ近郊の**南北通勤鉄道(NSCR)**及びその延伸、ダバオ市バイパス建設事業、首都圏鉄道3号線(MRT-3)改修、新ボホール空港(いずれも有償)等、多数の事業を実施。
- **海上法執行能力強化**
 - 治安・テロ対策のための**沿岸警備隊の人材育成、巡視船等供与**(97m級:2隻、44m級:10隻(いずれも有償)、高速ボート13隻(無償)供与)、レーダー11基設置(無償)等。
- **包摂的な成長のための人間の安全保障の確保**
 - 違法薬物対策(使用者の治療強化)(無償)、洪水リスク管理(有償)等の防災事業。
- **ミンダナオ和平に向けたバンサモロ暫定自治政府への支援**
 - JICA専門家派遣、暫定自治政府の能力開発支援、戦闘員の退役・武装解除支援等。



地下鉄ボーリングマシン発進式



比沿岸警備隊に供与された巡視船

日フィリピン間の人的交流

1. 概況

- 良好な日比関係を背景に、両国間の人的交流は拡大・深化の一途。昨今では、寿司、ラーメン、たこ焼き等の様々な日本食が人気を集めるとともに、生け花、盆栽、アニメ、コスプレなど多岐にわたる日本文化への関心の高まりもあり、親日度／日本への信頼度は極めて高い。
- 渡航者数は双方向で大幅拡大（パンデミックにより一時停止するも、足元では、特に訪日フィリピン人数が急激に回復）。昨今ではスポーツ分野での交流も活発化。
- 日本語学習熱も高く、日本政府による国費留学生やJETプログラム等の人的交流プログラムへの応募は年々増加傾向（新型コロナの影響により減少したものの、2023年のJET派遣数は77名、国費留学生は105名）。
- 2022年末の日本での在留フィリピン人は298,740人。また、2022年10月の日本でのフィリピン人労働者数は206,050人。



2023年国費留学生(MEXT)杜行会



ジャパン・フィエスタ2023



2023年旅行博(JNTO)



マニラで毎年開催されているコスプレイベント

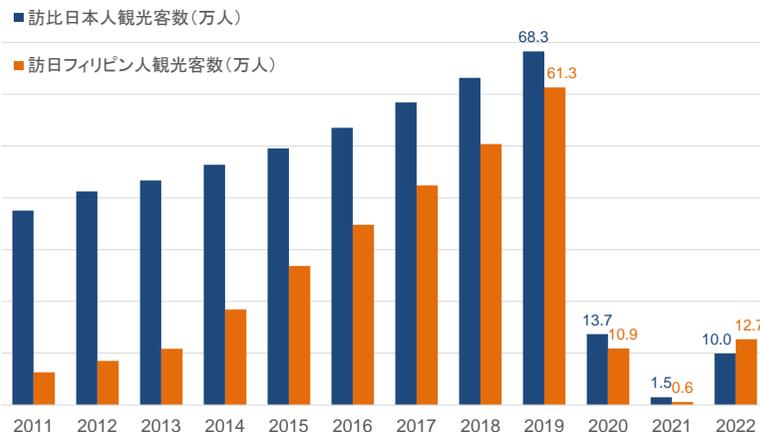


JETプログラムで活躍するフィリピン人英語補助教員

2. 双方向での渡航者数(観光客)の動向

- 英語留学も多く、訪比邦人数は過去最大の68万人まで増加。訪日フィリピン人数は、**コロナ前の8年間で約10倍に増加**。足元では急激に回復し、8月までの累計は、2019年を上回る36.7万人。

日・フィリピン間の観光客往来 (出展: 日本政府観光局、比観光省)



3. スポーツ交流

- 日比双方にゆかりのあるスポーツ選手の活躍が目覚ましい(ゴルフの笹生選手(全米オープン優勝)や、空手の月井選手(世界選手権優勝)、大相撲の御嶽海、高安関等)。
- 日本のプロバスケやバレー・リーグへのフィリピン人選手の進出も増加(ラベナ選手(バスケ)やサンティアゴ選手(女子バレー)等)。日本を拠点とする体操のカルロス・ユーロ選手も世界選手権金メダル(跳馬)など活躍。
- 東京オリンピックでは、ディアス選手(女子重量上げ)の比史上初の金メダル獲得など、史上最多の4つのメダル獲得。2023年8~9月にはバスケットボールのワールドカップ(日比尼共催)が成功裏に開催された。



御嶽海関と高安関



笹生優花選手



月井隼南選手



ハイデルリン・ディアズ選手 サーディ・ラヴェナ選手 カルロス・ユーロ選手